

# ラグビーワールドカップで 地域を世界にアピール



とみおか きよし  
**富岡 清**

くまがや  
熊谷市長(埼玉県)



のだ たけのり  
**野田 武則**

かまいし  
釜石市長(岩手県)



さとう きいちろう  
**佐藤 樹一郎**

おおいた  
大分市長(大分県)



のだ よしかず  
**野田 義和**

ひがしおおさか  
東大阪市長(大阪府)

司会・コーディネーター

しまづ あきら  
**嶋津 昭**

ラグビーワールドカップ2019  
組織委員会事務総長

夏季オリンピック、FIFAワールドカップと並ぶ、世界三大スポーツイベントの1つといわれるラグビーワールドカップ。4年に1度開催され、ラグビーの世界王者を決める大会で、第9回大会「ラグビーワールドカップ2019™」は日本の12会場で開催されます。

座談会では、嶋津昭・ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長の司会の下、同大会の開催準備を進める野田・釜石市長、富岡・熊谷市長、野田・東大阪市長、佐藤・大分市長にご出席いただき、大会に向けた準備状況や課題、試合会場を満員にするための取り組みなどについて、幅広くお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)



野田 武則  
釜石市長(岩手県)

国内外からいただいた  
復興支援に対する  
感謝の気持ちを、  
釜石市での開催を通じて  
世界中にお伝えしたい。

## 大会に向けての取り組み

**嶋津**

日本で開催される「ラグビーワールドカップ2019」は、我々組織委員会が主導する大会ではありません。開催地の皆さまと組織委員会が連携して、共に進めるところに最大の特徴があると考えております。その意味でも、両者が大会の成功に向けて力を合わせて準備をし、運営を適切に進めていくことが極めて重要です。本日は、この座談会を通じて大会に向け

て共に汗を流す仲間である市長さん方と活発な意見交換ができることを、組織委員会の事務総長としても大変嬉しく思っています。

それでは、まずそれぞれの市長さん方から、これまでの各都市における取り組みについて、お話しただければと思います。

**野田(武)** 昭和50年代から60年代にかけて、釜石市を本拠地とする新日鐵釜石ラグビー部はラグビー日本選手権で史上初めて7連覇を達成しました。このことは釜石市において最大の誇りであり、これまでまちのレガシーとして大切にしてきました。釜石市が「鉄と魚とラグビーのまち」といわれるゆえんです。

釜石市は東日本大震災で壊滅的な被害を受けました。新たな復興のまちづくりを模索する中で、「ラグビーワールドカップ2019」の日本開催が決定しました。多くの関係者から、釜石も開催都市に立候補すべきだとのご提案をいただきましたが、当時はまだ多くの市民が仮設住宅などで不自由な生活を余儀なくされていた時期でした。果たして立候補することは可能なのか、開催都市に選ばれてもしっかりと準備ができるのか、不安な気持ちもありましたが、最終的には岩手県の全面的な協力の下、共同開催の形で立候補することになりました。開催都市の1つに選ばれた瞬間、まち全体が喜びに包まれたことを、昨日のこのように思い出します。

被災地全体の復興の象徴として、このラグビーワールドカップを地域に活力をもたらす機会としたい。そして、国内外からいただいた復興支援に対する感謝の気持ちを、ラグビーを通じて世界中にお伝えしたい。そうした思いを持ちながら、私たちは被災地、そして東北6県の

代表として、さまざまな取り組みを進めているところですが。今後は被災した市民はもちろん、広く東北地方の皆さんともそうした意識の共有を図りながら、万全の準備を進めていきたいと考えています。

**富岡** 熊谷市では平成3年に、県営熊谷ラグビー場が市内に新設されたことに加え、地元の県立熊谷工業高校が全国高等学校ラグビーフットボール大会で優勝したことで、市民のラグビー熱は一段と高まりました。以来、熊谷市は「ラグビータウン熊谷」を標ぼうしています。

そのようにして市内のラグビー文化が醸成されてきた中で、「ラグビーワールドカップ2019」の日本開催が決まりました。私は埼玉県ラグビーフットボール協会の会長という立



今年の7月に完成予定の「釜石鶴住居復興スタジアム(仮称)」(釜石市)

## 熊谷ラグビー場も

8月に竣工予定であり、着実に準備を進めています。世界中の皆さまを「ラグビータウン熊谷」にお迎えしたい。



富岡 清  
熊谷市長(埼玉県)

場でもありますが、埼玉県との共同開催で、熊谷市が開催都市に選ばれたことに、大きな興奮を覚えました。

現在は、組織委員会のご指導をいただきながら、各種計画の策定に加え、市民に対する機運醸成や広報活動を進めています。その一環として、成人式など各種イベントでPRブースを出展したり、市役所本庁舎などにラグビーコー

ナーを設置したりしているほか、多くの市民にラグビーを親しんでもらうことを目的に、昨年は「グローバルラグビーフェスタ2017埼玉・熊谷」として、ラグビーの国際交流試合も行いました。観客数は1万1000人を超え、ラグビーワールドカップを迎えるに当たっての課題を抽出する機会ともなりました。

ほかに、隔月での「熊谷ラグビーワールドカップ情報」の市内全戸配布、ボランティアの養成はもとより、子どもたちへのラグビー普及に向けて、関係各所の協力を得ながら、「NHKジュニアラグビー教室」やタグラグビー教室などの取り組みも進めています。

**野田(義)** 東大阪市は、ラグビーの聖地・花園ラグビー場を有する、ラグビーのまちです。ラグビーワールドカップ誘致の取り組みも実に早く、「ラグビーワールドカップ2019」の日本開催が決まった当日から、活動をスタートさせました。さらに、平成22年に市役所に専門のセクションを設置してからは、ラグビーワールドカップにちなんだ原付きバイク用のナンバープレート制作、クールビズ期間中の職員のラガーシャツの着用、市民への署名活動のお願いなど、一連の取り組みを着々と進めてきました。

開催都市への選出後、昨年2月からは、試合会場となる花園ラグビー場の改修工事も始まりました。今年の9月までに、スタンドの新設・増設、座席の改修、照明設備や大型映像装置の設置工事などが行われる予定です。ちなみにこの花園ラグビー場は、もともと近畿日本鉄道の所有でしたが、平成26年に東大阪市に施設が無償譲渡されました。日本で最も古い、ラグビー専用スタジアムである花園ラグビー場が、市の



熊谷駅前に設置されている「ラグビータウン熊谷」のモニュメント(熊谷市)

所有になったことで、東大阪市のポテンシャルも一段と高まったと思います。

ラグビーワールドカップに向けて、海外からの観客を含め、どのようにお客さまを受け入れ、おもてなしをするのかも大きな課題です。市内には4つの大学があります。また、東大阪市は50万都市ではありますが自治会の加入率が非常に高いまちでもあります。さらに、交通の利便性が高く、京都・奈良などの観光地にも短時間で訪れることができます。ぜひこうした東大阪市ならではの貴重な資源・条件を生かしながら、効果的におもてなしを進めていきたいと思えます。

**佐藤** 大分市では、約4万人収容できる県営スタジアムがある「大分スポーツ公園総合競技場」

を試合会場に、ラグビーワールドカップでは準々決勝2試合を含め、全5試合が開催されることになりました。地元はとても沸き立っています。これまで、前回イングランド大会のパブリックビューイングを市内で行ったほか、広瀬大分県知事を団長にイングランド大会の視察も行いました。

大分市は、全国屈指のラグビーの強豪校で、過去に全国制覇を果たしたこともある、地元の県立大分舞鶴高校の存在もあり、ラグビーは市民にとって身近なスポーツのひとつです。この2年ほど、大分銀行ドームでラグビートップリーグの試合も行われ、昨年は2万人近い観客が入りました。

このように大分市は、ラグビー熱が高いまち



改修工事が進む「東大阪市花園ラグビー場」(東大阪市)

ですが、大会開催の機運をさらに高めるために、各種イベントでのPR、子どもたちを対象としたタグラグビーの普及イベントなども行っています。さらに、大分駅前や大分空港へカウントダウンボードを設置したり、商店街や県庁・市役所等において垂れ幕の掲示なども行っています。

また、大分市では出場チームが過ごす、公認チームキャンプ地の誘致に向けた取り組みも活

ラグビーワールドカップに合わせて、市内の企業とコラボしながら、東大阪市のモノづくりの素晴らしさも世界に発信したい。



野田 義和  
東大阪市長(大阪府)

発に進めています。そのための施設整備として、現在、市内において、練習グラウンドの整備、クラブハウスの改修、照明設備の新設工事などを進めています。併せて、平成28年11月には、私を団長に、大分市ラグビー協会の皆さんと、ラグビーワールドカップ出場国のひとつであるフィジー共和国を訪れ、現地のラグビユニオンや青年スポーツ省、教育省などに対して誘致活動を行いました。

### 大会に向けての課題

**嶋津** 4市長さんからお話しいただいたように、釜石市では、スタジアムを新設するほか、熊谷市と東大阪市は、スタジアムの抜本的な改修を行っています。加えて、大分市でも、トレーニング施設を含め、関係施設の改修工事を進めています。いずれの都市も、施設整備に大きな課題を抱えていると思いますが、いかがでしょうか。

**富岡** 会場となる県営熊谷ラグビー場を運営するのは埼玉県ですから、メインの施設整備については埼玉県の負担で進めています。一方で、ラグビーワールドカップ時に練習会場となる施設の芝生の張り替えなどは、熊谷市で進める予定です。あくまでも県との共催ですから、役割分担をしながら、準備を進めていきます。

むしろ、熊谷市で一番の課題となっているのは、観客の皆さんの移動手段の確保です。県営熊谷ラグビー場は、最寄りの駅から4kmほど離れた場所に位置しています。駅周辺が過度に混雑しないための、適切なファンゾーンの設置、そして駅前を含めた複数カ所からの、バスを利用したパークアンドライド方式での輸送など、現

ラグビーワールドカップの開催はインバウンド促進につながる絶好のチャンス。九州全体での広域的な誘客に取り組みたい。



佐藤 樹一郎  
大分市長(大分県)

在、具体的な輸送計画を練っているところでは、**野田(武)** 釜石市では、財源の確保を含め、スタジアムの新設が大きな課題となっていました。が、順調に建設工事が進んでおり、ラグビーワールドカップ時には仮設を含め約1万6000席のスタジアムが、今年の7月に完成の運びです。

他方、熊谷市と同様に、釜石市でも観客の皆さんの輸送が大きな問題となっています。おかげさまで復興関連事業などにより、道路、鉄道

の輸送ライン、アクセスは、従来より確実に良くなっていますが、宿泊施設は釜石市内だけではなくても足りません。まちなかが混雑せずに、大勢の観客やボランティアの皆さんが宿泊地域などから、スムーズに会場にお越しいただくために、私たちも大型バスなどを活用したパークアンドライド方式の輸送を検討しています。

**嶋津** 東大阪市の花園ラグビー場は日本のラグビーの拠点のひとつです。ラグビーワールドカップ開催に合わせて、この花園ラグビー場や、東大阪のまち自体を世界にアピールすることも大切になってくると思いますが、東大阪市ではどのような取り組みを考えていらっしゃいますか。

**野田(義)** 東大阪市の歯ブラシから人工衛星まで、何でもつくれる「モノづくりのまち」として全国に名を馳せています。ラグビーワールドカップに合わせて、市内の企業とコラボしながら、東大阪市のモノづくりの素晴らしさを世界に発信していきたいと考えています。また、今後、大阪大学医学部が花園ラグビー場を拠点に据えて、スポーツ医学の研究を進めることが決まっています。ぜひ、こうした面も世界に伝えていきたいと思っています。

**嶋津** 準々決勝2試合が行われる大分市には、特に世界各地から観客が押し寄せることが予想されます。中には2、3週の間、日本に滞在し、複数の試合を観戦するラグビーファンも多くなります。そういった方々に対するおもてなしについては、受け入れ地域として大分市ではどのように考えられていますか。

**佐藤** 九州にはこれまでも外国から多くの観光客がお見えになっていますが、韓国、中国、台湾のアジア地域の方々を中心です。その点、ラ



「ラグビーワールドカップ2019」開催2年前セレモニーの様子(大分市)

グビーワールドカップ期間中には、ラグビーが盛んな、欧米やオセアニアの方々も数多くお越しになるでしょう。観光振興やインバウンドの促進につながる絶好のチャンスだと思っています。

大分県内の魅力発信はもちろんのこと、大分市同様にスタジアムがある熊本市、福岡市の関係者とも連携して、ぜひ九州全体での広域的な誘客に取り組みたいと考えています。また、英語圏から訪れる方々も多いと思いますので、英語を使った情報発信にも力を入れていきたいです。

### 全試合「満員」が大会成功の条件

**嶋津** 私はラグビーワールドカップ2019の成功の条件は、全48試合においてスタジアムを満員にすることにあると考えています。そのた



嶋津 昭  
ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務総長

めの各都市の方策、取り組みについて、最後に聞きたいと思います。

**富岡** 地元で開催するわけですから、熊谷市民に足を運んでいただくことが大切です。昨年、トップリーグの試合の「市民優待」の取り組みなどを行いましたが、こうした取り組みなどを通じて、ラグビーに対する親しみをさらに高めていきたいと思っています。

併せて、熊谷は上越新幹線の停車駅でもあります。その利便性を生かし、首都圏、そして新潟県や北陸地方の方々からお越しいただきたいと考えています。

**佐藤** 恐らく1試合当たり4万人のうち、2万人は地元を中心に九州地域の方々、残りの2万人は外国人や九州以外からお越しになる方々に分けられると思います。

地元の皆さんに対しては、世界の強豪チームの試合を見る機会はない、まさに一生に一度の機会であることをしっかりPRしていく一方で、九州以外の方々に向けては、先ほど申し上げた広域観光も含めて、地域の魅力を積極的に発信していきたいと思っています。

**野田（武）** 私たちのような小規模都市におい

て、1万6000席を満員にするというのは、確かにハードルが高いです。しかし、被災地、東北6県を代表して開催することを考えると、決して手に余る数字ではないと思っています。各被災地にある震災の伝承施設をはじめ、既存の観光資源も組み合わせながら、釜石市への誘客につなげたいと思います。

加えて、私たちは東日本大震災を通じて、人と人の絆の大切さを強く実感しましたが、それはラグビーの精神、スポーツの原点とも相通じるものがあるように思います。ぜひ、そうしたスポーツの原点が垣間見られる試合を、大漁旗を使った釜石独自の応援スタイルなども通じて、お見せしたいと思っています。

**野田（義）** 地元の方々を中心にラグビーワールドカップの開催を心待ちにしている方ばかりです。全国のラグビーファンの来場が見込めるほか、今年からは、外国人向けのパンフレットを作成し、ラグビーワールドカップを含めた「聖地」花園ラグビー場のPRも、海外に向けて積極的に開始しております。

また、日本のラグビーの拠点にふさわしい取り組みとして、各国代表チームのキャンプ地の自治体や近隣会場の神戸市ともスクラムを組んで、神戸と花園の試合をセットで見たいだけのような施策を仕掛けていきたいと思っています。

**嶋津** 試合会場、宿泊・トレーニング施設を含め、最高の環境を出場チームの皆さんに提供することが、我々に与えられた課題です。それがラグビーワールドカップを盛り上げ、大会を成功に導く必要十分条件だと思います。

さらに、私たちはラグビーワールドカップ2019が終わった後に、何をレガシーとして



残すことができるのか、という点についても考える必要があります。私としてはスポーツを巡る文化、経済において、新しい側面を開く大会にできるのではないかと考えています。

また、今回の日本開催はアジアで初めてのラグビーワールドカップです。この日本大会がアジアに広くラグビーを普及させ、かつ日本国内においても、ラグビーのすそ野を広げる手掛かりとなる大会になったといわれるように、ぜひ、市長の皆さま、住民の皆さまとともに努力していきたいと思っています。本日はありがとうございました。

（平成30年1月24日、全国都市会館にて開催）  
本コーナーは隔月掲載となります。次回は5月号に掲載予定です。